

平成31年度第1回士別市教育委員会会議録

1. 日時 平成31年 4月11日(木) 午後 3時30分～ 5時40分
2. 会場 教育委員会 教育長室
3. 出席者
- | | | | |
|-----|---------|--------------|---------|
| 教育長 | 中 峰 寿 彰 | 生涯学習部長 | 鴻 野 弘 志 |
| 代理 | 五十嵐 紀 子 | 朝日地区スポーツ統括監 | 長 南 広 基 |
| 委員 | 千 田 秀 昭 | 合宿の里統括監 | 三 上 正 洋 |
| 委員 | 馬 場 千 晶 | ホストタウン統括監 | 濱 田 納 睦 |
| 委員 | 加 藤 洋 之 | 学校教育課長 | 須 藤 友 章 |
| | | 学校教育課教育事務管理監 | 大 留 義 幸 |
| | | 学校教育課教育管理監 | 藤 田 泰 昭 |

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

新年度初めての教育委員会会議を開催する。入学式・始業式に残念ながら数名の児童・生徒が参加できなかった。一方で、これまでウィズにしか通えていなかった子どもが、学校に通うことができている。全ての子どもが学校に通って、大きく成長してもらいたい。

先日、教職員に辞令交付したところ。校長8人、教頭5人の異動や、新たに採用された教員が14人など大きな変化があった。まずは新しい環境に慣れる・馴染むことが大切。そのうえで個々の能力を発揮していただきたい。

一昨日は管内教育長会議で「上川の教育の重点」について説明があった。今後は管内の校長会議や教頭会議も予定されており、今年度がスタートしたと感じている。

教職員の働き方改革については、局に専門職員が配置された。本市においてはコミュニティスクールとの連動などについて考えていくことも一つの方法と考えているので、委員のみなさんからご意見をいただきたい。

1年よろしく申し上げます。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第1号 平成31年度士別市教育推進の重点について説明を求める。

○鴻野部長

教育行政執行方針を基に重点を洗い出した。昨年は43項目あったが、本年は42項目となった。(別紙資料1に基づき説明)

○中峰教育長

個別具体的に書くやり方もあるが、一昨年までは項目が多すぎた。疑問点やご意見は。

○五十嵐代理

土曜子ども文化村は、今までの3つのポジションを統合したということか。

○教育長

これまで事業が調整されていなかったもので、連携しながら実施するという。生活館など整理する。メニューによって参加人数の差が大きいため、柔軟性を持って対応し、連動させようとの狙い。以前は30回近かったものを18回に絞った。また、土日に開催しているため、教育委員会職員の時間外勤務も問題になっている。

○加藤委員

今年度から18回になるのか。

○藤田管理監

4館から3館体制に減らした。

○中峰教育長

プログラムによっては、毎年同じ内容になってしまうことも。そのような場合は2年に1回実施するなど考えても良いかもしれない。

○五十嵐代理

メニューの好き嫌いではなく、登録した子どもは全てに参加していると思っていた。メニューによって参加が少ないというのは不思議。参加して得られることがあるので出してもらいたい。

○中峰教育長

少年団活動などが重複し、やむなく参加できないこともある。みよし市や川内村との交流について「交流事業」と記載したが「交流学习」、「交流研修」などふさわしい言葉にした方がよいのでは。

○鴻野部長

「交流学习」に変更する。

○中峰教育長

士別にコラッセ夏学校では、老人クラブなど様々な団体の協力もいただいていたが、これまでのやり方を見直すとともに、本年度から教育委員会に所管替えするもの。

○馬場委員

開校式では、子どもより大人の数が多いことがあって、子どもたちが緊張してしまうこともあった。

○五十嵐代理

同じような年齢の子どもがいれば、ほっとするのは。

○千田委員

朝日中学校の耐震化は

○中峰教育長

30年度には学校全体の長寿命化計画を作成し、その中で検討することにした。中学校としてのあり方について加味しながら考えていかなければならず、早い段階で検討していきたい。

○千田委員

糸魚小も今は学年で7~8人いるが、今後は減少していく見通しだ。

○中峰教育長

朝日中の校舎については耐力度調査を行ったところ、想定に反して耐力度があるとの結果が出た。統廃合の想定を含めて非常にデリケートな内容であり、慎重に進める必要がある。

○馬場委員

どこの学校と統合するのか。

○中峰教育長

ある程度、仮定として考える必要はあるが、決まっていることではない。

○加藤委員

多寄中の施設はどうなるのか。今年度検討するのか。

○中峰教育長

地域として考えていることはあるようだが、今はまだ学校として使用している状況。現在は通学方法などについて協議しているところ。

○鴻野部長

小学校の保護者から小学校移転の話が出ている。特別教室を共有しているので、どう考えるか。

○五十嵐代理

トイレのサイズがネックと聞いている。

○鴻野部長

家庭では大人と同じトイレを使用しているので問題ないとの意見もある。

○中峰教育長

職員室が2階にあるということが一つのネックである。

○五十嵐代理

アーティストインレジデンスに関して、博物館から発信している情報が市民に浸透していないと感じている。作家は限られた家にしかいないため、もっと市民の中に入り込むべき。

○中峰教育長

具体的なアイデアがあればお聞きしたい。

○五十嵐代理

秋をテーマとした時は、駅前で公開制作もあった。版画は屋内での作業であり、興味のある人しか来ない。もう少しオープンになると良い。

○中峰教育長

日本版画協会の巡回展も小林先生の紹介で非常に内容の濃いものとなった。九十九大学は開学から50年目となる。(周年としては49周年になる。)

※ 議案第1号 了承

○中峰教育長

議案第2号 士別市学校運営協議会委員の選任について説明を求める。

○藤田管理監

辞令交付式後に各学校に協議会通知を交付した。これで市内すべての小中学校でコミュニティスクールの体制をスタートさせた。

○加藤委員

複数の協議会で重複している委員がいる。

○藤田管理監

士小と士中、南小と南中に、それぞれ地域コーディネーターを1名配置している。

○加藤委員

協議会によって委員の偏りがあるようだ。

○藤田管理監

地域によって求める人材が違っている。独自性が出ているということ。

○中峰教育長

委員の選考にあたり、西小の統合は、どの程度配慮があったか。

○藤田管理監

昨年、配慮してもらいたい旨を伝えたところ。年度途中での増員も可能であるため、その旨を再度学

校に伝える。

※ 議案第2号 了承

○中峰教育長

議案第3号 士別市立学校における教職員の働き方改革推進プラン(案)について説明を求める。

○鴻野部長

平成30年度内の策定を目指していたが、少し遅れてしまった。市立高校・小中学校職員及び保護者代表の計7人に検討していただいた。大きなネックになるのは部活動。教職員には休養日が必要である一方、指導して強くしたいという思いもある。今年度から部活動の拠点校方式を試行する。

○中峰教育長

働き方改革推進のため、上川教育局に新たなポストが作られ、担当主幹が配置された。教育委員会の責務として保護者に理解してもらうことも役割のひとつ。

○五十嵐代理

拠点校方式になった場合、中体連大会へはどのように出場するのか。

○鴻野部長

中体連の規則に準じることになる。例えばバスケットボールでは、士別中チームとして士別中と南中の合同で出場するが、南中の生徒が5人以上いる場合は、それぞれの学校で出場することが必要。日常の部活動は合同で行い、大会には別のチームで出場するというのは難しい面がある。

○加藤委員

5人チームの競技で5人だけで出場するというのは無理があるのでは。

○中峰教育長

中体連側は、やり方を変えようとしていない。様々な機会に制度改正を働きかけていきたい。間違いなく現在は過渡期にある。部活動が成り立たなくなるなか、クラブチーム方式など地域での指導体制を本気で考えていく必要もある。

○加藤委員

本市だけの問題ではないはず。

○鴻野部長

すでにサッカーはクラブチームとして活動しており、中体連には出ていない。バスケットボールも同じ動きになる可能性がある。

○中峰教育長

レスリングやウエイトリフティングは中体連の種目にはないものだが、こうした競技のあり方も考慮していく必要がある。バスケについて、南中で部活を復活できる体制を再度考えられるか。

○加藤委員

南中の教員が士別中で指導することは可能か。

○藤田管理監

顧問を設けての体制は困難。

○中峰教育長

これまでも部活動の指導者は教員の異動に左右されてきたところ。保護者の気持ちも様々である。

※ 議案第3号 了承

2 その他について

○中峰教育長 進行

- (1) 士別市教育委員会所管事務各種審議会等委員について
別紙資料2に基づき須藤課長説明。
- (2) 平成31年度市内小・中学校運動会及び体育祭出席者について
出席する委員を決定した。
- (3) 当面する今後の日程について
鴻野部長説明。

○加藤委員

4月は会議が多くあるので、夜の行事も含めて、日程が決まり次第学校にも周知してもらいたい。PTA関係なども日程が重複すると再度調整しなければならない。

○中峰教育長

3月中旬頃には周知できるよう調整したい。

午後5時40分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰 寿彰

会議録調整者 須藤 友章